

放課後子ども教室推進事業

自治体名

岩手県二戸市

学校数

小学校 8校 中学校 4校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

震災による被害は沿岸部に比べれば小さかったものの、災害に対する不安は高まっており、地域と学校との連携を強め、地域の絆づくりと地域で子どもを育てることの大切さが認識されている。

～放課後子ども教室夏休み企画「体験バスツアー」～

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
	○			
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
			1回	いわて花巻空港、紫波フルーツパーク

活動内容

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動 ○	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他

二戸市教育委員会では平成22年度より、様々な体験学習や施設・工場見学等を通じて子どもたちの豊かな社会性を培うことを目的に、放課後子ども教室利用児童を対象としたバスツアーを長期休業中に開催している。今年度は、夏休み期間の8月11日に、石窯ピザ作り体験と花巻空港の施設見学を行い、32名の児童が参加した。

ピザ作りでは、土台となる生地から上に載せるトッピングまで、「焼き」以外のすべての工程を子どもたちが行った。野菜や肉を切る作業では、初めて包丁を使う子どももいて大変苦勞していたが、高学年の子どもが低学年の子どもに声をかけたり、切り方を教えたり、手伝ったりしながら、作業を進めていた。

花巻空港の見学は、あいにくの雨模様だったが、子どもたちは傘をさしながら送迎デッキまで出て、到着する旅客機を興味深そうに見ていた。空港内の売店では子どもたちだけでお店を回り、決められたお小遣いの中で欲しい物をじっくりと選びながら買い物をしていた。

この活動を通じて、異なる年齢や学校区の子どもの交流を図ることや、普段の生活では味わえない体験ができたのではないかな。今後も放課後における子どもたちの安心安全な居場所づくりを通して、様々な体験機会を計画的に提供していきたい。



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

震災津波による被災はなかったが、同年の年末年始の大雪による倒木に伴う数日間の停電等の被害があった。人的被害等は無かったが、極寒の状況での停電で命の危険を感じた人は少なくない。

そのような状況の中で、地域住民の協力等により暖を取り、難を逃れた体験から、地域コミュニティの大切さを改めて感じた。

◇住民等からの要望・必要な取組

少子化に加え、核家族化や共働き世帯が徐々に増加し、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所の確保が求められている。安全・安心な居場所の確保は日常のみならず、地震などの災害発生時にも必要不可欠なものである。

また、学校以外での子ども同士のかかわりや体験活動の機会の減少も課題となっており、放課後子ども教室における活動内容の工夫が必要である。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・ いわて花巻空港…施設説明
- ・ 紫波フルーツパーク…体験活動指導

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・ 学年や小学校区の枠を取り払い全教室の児童を対象とすることで、子ども同士のかかわりがより多くなるようにした。
- ・ 普段目にするのでできないのを見たり、使ったりする体験ができる内容にした。
- ・ 長期休業中に開催することで参加しやすくするとともに、帰宅後親子で話題にしたり、残りの休業中に再度出掛けたりといった家族のふれあいにもつなげたい。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

「体験バスツアー」は今年度で5回目の開催となり、締切日よりかなり前に募集定員に達するほどの参加希望がある。例年プログラムの内容を工夫し、多様な体験活動ができるようになってきた成果と思われる。同時に、体験活動へのニーズの高さも明らかになった。

また、今年度はグループで作業する時間を設定するなどして、子ども同士のかかわりにも重点を置いた。その結果、低学年に対して高学年が手助けする姿や、学校間を越えて楽しそうに会話する姿など子ども同士のかかわり合いが多く見られた。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

少子化で市内の児童数が減少する中、放課後子ども教室の登録者数は増加している。また「体験バスツアー」の取組も移動車の関係で定員を設定しているものの、年々参加申込みの問合せが増えている。

放課後子ども教室利用者数の推移

	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度
登録者数	209 人	243 人	272 人	309 人
1日平均利用者数	10.4 人	12.6 人	17.9 人	21.1 人

これらのことから本事業が災害などの有事はもちろん日常生活においても児童の安心・安全な居場所の確保に欠かせないものであるとともに、子どもたちにさまざまな体験活動をさせたいという家庭・地域のニーズにも応える事業となっている。

◇課題や今後の展望

放課後の児童生徒の居場所事業は安心・安全な居場所の確保に加え、豊かな体験活動もねらいの1つである。市内6ヶ所で開設している子ども教室ではそれぞれ地域人材を活用しながらさまざまな体験活動を工夫している。本取組は各教室では実施できない体験活動であり、楽しみにしている児童も多い。今後は各教室の体験活動とつながりをもたせ、双方にとってより効果のある取組にしていきたい。